

舞殿（下拝殿）

舞殿は本宮へと続く大石段の真正面に位置しています。「下拝殿」とも呼ばれ、大石段を上れない人も本宮をここから参拝することができます。ここでは毎年さまざまな祈祷が行われたり舞や雅楽が奉納・奉奏されたり、神前結婚式が執り行われたりしています。

舞殿は朱と黒の漆で塗られ、水の象徴である花や葉、鳥をモチーフとした彫刻や絵で飾られています。

鶴岡八幡宮の創建後数年のあいだ、この場所には鶴岡若宮の回廊がありました。1186年、白拍子として名高かった静御前(1165-1211)がこの回廊で初代鎌倉将軍の源頼朝(1147-1199)のために舞を披露しました。頼朝の異母弟である義経の妾である静は、頼朝の命により舞いを披露した際に頼朝の命令で追放の身となった義経を恋い慕う歌を詠みます。頼朝はこれに怒り静を殺すよう命じますが、頼朝の妻がとりなして静の命を救いました。この物語は後年いくつかの叙事詩や年代記で語られるようになりました。